

別紙（中間評価書）

平成 30 年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

<p>通し 番号</p>	<p>7</p>	<p>事業区分：劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 助成対象団体名：公益財団法人可児市文化芸術振興財団 施設名：可児市文化創造センター</p>
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>可児市が策定した「可児市文化創造センター条例」を踏まえた可児市文化創造センターのミッション、ビジョンと事業計画の整合性については明確で、これらの達成に向けて事業が適正に組み立てられていると認められる。</p> <p>『「芸術の殿堂」ではなく、人々の思い出の詰まった『人間の家』へ』を掲げ、舞台芸術の創造発信を始め、コミュニティ作りのワークショップ、子供・高齢者・障害者などの社会的弱者のコミュニティの創出等を通じ、生きる活力とコミュニティを生み出し、社会の健全化を実現しようとする取り組みは、助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>目標の達成に向けて、事業が着実に推移していると概ね認められ、アウトカム発現の可能性に期待が持てる。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>一方、事業費については、概ね適切であったと認められるものの、一部の活動において、要望時の予算額と報告時の実績額との間で乖離を生じており、今後、より実効性のある予算積算と適切な予算管理が望まれる。</p> <p>（創造性）</p> <p>「まち元気プロジェクト」を実施するにあたり、3つの戦略「感動と生きる希望を生み出す最高水準の舞台芸術創造発信」「人と人とを繋げていく市民総活躍社会の実現」「生き辛さを解消する文化芸術によるセーフティーネット」を掲げ、文化芸術による「人間の家」を目指している。</p> <p>最高水準の舞台芸術を市民に提供するため、日本トップクラスの芸術団体である新日本フィルハーモニー交響楽団と劇団文学座との間で日本初の地域拠点契約を締結し、質の高い公演を実施している。世界的に演奏活動しているウイーン・フォルクスオーパー交響楽団を招へいした演奏会など、地域では鑑賞が難しい国際的水準の舞台芸術の鑑賞の機会を提供した。</p> <p>これらの公演に当たっては、地元企業からの寄付金を原資として、中高校生や一人親家庭を無料招待する「私のあしながおじさんプロジェクト」を実施している。同プロジェクトは、経済的要因による文化芸術へのアクセス機会の格差是正に貢献するとともに、鑑賞を契機とした家庭内でのコミュニケーションの促進にも寄与している。</p>		

別紙（中間評価書）

文化芸術活動の発表の場として、「オーケストラで踊ろう！」では市民ダンサーと市民の可児交響楽団との公演で、2か月半に及ぶ稽古を通し、世代を超えた交流によるコミュニティを創造し地域の活性化に繋がっている。

「ココロとカラダのワークショップ」においては、乳幼児を抱える親子や高齢者を対象に、演劇やダンスの要素が盛り込まれたワークショップを行い、孤立や虐待の予防、健康向上、参加者同士の仲間づくりに寄与した。その他、社会的弱者の生きがいとコミュニティを創出する様々なプロジェクトを実施しており、これらの取組は、障害の有無、国籍、性別の垣根を越えて、多様な市民が社会参加できる機会を開き、生き辛さを解消する文化芸術によるセーフティーネットの構築に資するものと評価できる。

以上のとおり、本劇場は、全体として、文化芸術による社会包摂を劇場経営の中核に据えた事業展開をしており、そこには高い独創性、先導性が認められる。

本劇場は全国に先駆けて多くの社会包摂型事業に取り組んでおり、館長が全国各地でその理念を普及し、事業の参加者や劇場視察者などから評価する声も多い。単なる鑑賞機会の提供に留まらず、各事業を通じて地域社会の健全化を目指す劇場のあり方が新聞・雑誌で掲載されるなど注目を集めており、国内での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

組織面では、非正規職員から正規職員への転換を進めており、組織体制の強化がなされている。また、文化庁の新進芸術家海外研修制度を積極的に活用し、職員のスキルアップを図っている。

財務面では、市との密接な関係を基礎とした安定的な財務基盤の確保がなされている。

その他、地域住民の自律的なボランティア活動など、事業を遂行する上での外部の協力体制も確保されている。

以上のことから、組織活動が持続的に発展し、アウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

（総 評）

可児市文化創造センターの事業計画「まち元気プロジェクト」は、妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に進められていると認められる。

今後も可児市文化創造センターが持つ社会包摂といった自らの強み・特色を活かし、戦略的な事業展開に期待したい。

中間評価結果

（可否のいずれかに○を附す）

継続

可

否